海軍魂

愛知県　金田安之

昭和十五年度後期　甲種合格現役兵
昭和十六年六月　呉海兵団入団同年十月卒業
昭和十六年十二月八日　米英に宣戦布告
昭和十七年三月　横須賀海軍工作学校普通科入校
昭和十七年十一月　一番で卒業、恩賜の時計を受賞
昭和十七年十二月　第七戦隊旗艦巡洋艦「熊野」乗艦
昭和十八年　陸軍南方派遣軍輸送船護衛ボルネオ方面よりの原油内地輸送船護衛等
昭和十八年七月　第三次ソロモン海戦に従軍
七月七日　午前二時コロンバンガラ島沖にて敵雷撃機の魚雷三発被弾内地にて二カ月で修理
昭和十八年十月　北方南方各諸島米英軍逆上陸地点に艦砲射撃陸軍部隊救助作戦
昭和十九年五月　リンガ湾にて帝国連合艦隊四〇隻集結米英連合軍撃破の作戦行動訓練
昭和十九年六月二十一日　世界海軍を相手に日本の運命を賭け「あ号作戦」に従軍（サイパン島攻防戦）敗退す日本連合艦隊四〇隻、敵米英仏濠連合軍六〇隻
昭和十九年十月　沼津海軍工作学校高等科入校
昭和二十年五月　卒業
昭和二十年　菊水特別攻撃隊基地勤務（人間魚雷基地　山口県平生）
昭和二十年八月十五日　終戦基地残務整理
昭和二十年十二月　復員
以上の略歴が私の海軍生活の大略です。

私が入営した時の家庭の状況は、
父　健在　農業　田畑一町弱　山林若干
母　〃
兄　〃　支那大陸へ従軍出征中

兄の妻　〃
姉　〃
本人　〃　名古屋の鉄工所徒弟奉公（三菱重工業の下請け）

というもので、生活はまあまあでした。

私の軍人生活期間を通じて二回の大きなラッキーがあって、五体無事に復員した幸運に恵まれています。

第一は昭和十八年七月の第三次ソロモン海戦に「熊野」乗艦中、敵の魚雷三発を受けたが、人的損害も少なかったときのこと。私は中甲板に位置していたので全く人体に被害はなく、元気いっぱい働き回った（魚雷爆発と共に気絶したが）。

第二は昭和十九年十月、沼津の工作学校に入校の時。乗艦「熊野」が出港二時間前という際どいタイミングで、急遽退艦して無事でしたが、乗艦の熊野はそのまま出港して行き、レイテ海戦に活躍中駆逐艦の発射した魚雷を受けて損傷、戦列を離れ、コロン湾に回避停泊中、十一月二十五日米空母「タイコンデロカ」機の爆撃によって沈没した。このため乗組員の内約六〇〇人が戦死、約六〇〇人が生き残ったという。

私は二時間の直前に退艦していて助かった。戦死した六〇〇人の戦友に誠に申し訳なく、衷心よりその御冥福を朝夕祈る毎日である。

私は海軍在隊中ずーっと、故郷の渥美郡田原町の氏神様のお守りと両親の写真を肌身離さず身に着けていた。そのお陰である。

次に学校生活について述べる。

第一の横須賀海軍工作学校普通科時代のこと。私の学歴は尋常高等小学校卒業である。学校卒業とともに名古屋の鉄工所（三菱重工業の下請け会社）へ徒弟奉公に出され、旋盤やいろいろな機械に取り組んだ。その経験が役立ったと思う。その上私は声が大きいので、よく号令をかけさせられ、教員の補助役を命ぜられ楽をした。

実技には鋳造、溶接、板金、仕上、機械、鍛冶などがある。入隊前の実績がものを言って苦しまなかった。ところが学科の方は苦しんだ。学校では起居はハンモックでする。廊下の天井灯（裸電球）は終夜点灯の下

ヘハンモックを位置付けて、消灯後も天井灯を利用して、毎夜おそくまで学科の勉強に努力した。その甲斐あって見事一七一人中の首席となり、恩賜の時計を受けた。千点満点で九八〇点である。

早速、父母に報告し、また父母より奉公先の会社へも知らせてもらった。喜びと励ましの通知もすぐきて、男子の本懐をかみしめて、更に奮励努力を我が胸に誓った。

卒業後は首席の成績の賜物か重巡「熊野」（新鋭の威容を誇る一万二千トン、三五ノット、二〇センチ砲一〇門、一二・七センチ高角砲八門、発射管一二門、水偵三機）という最新鋭で憧れの重巡に乗艦の栄誉に恵まれて、勇躍赴任した。懐かしく思い出す。感無量！

第二の沼津海軍工作学校高等科時代のこと。ここでは横須賀の普通科首席の意地にかけてがむしゃらに頑張った。卒業は二一人中の第二番の優等成績。これも早速両親、会社へ知らせ、一層の奮起を胸に約束した。

卒業後は最も名誉のある困難な条件の海軍潜水学校分校勤務を命ぜられ、山口県平生の人間魚雷基地（菊水特別攻撃隊基地）へ着任した。この基地には予科練が五千人いて（その当時は飛行機が不足して、予科練は空へ上がらず、陸上や海中勤務に回されていた）、元気いっぱい切歯扼腕の朝夕を過ごしていた。

そのうち、昭和二十年八月十五日の終戦である。自分の特技を活用して帝国海軍の一員として名誉ある戦果をとの期待に反して、平静に終戦となる。生還の喜びもなくはないとは言え茫然自失、自分の、海軍の、帝国の行く先を思い、戦友と互いに預け合った遺書、遺髪などを処分して、前途にはっきりした目標、光明のないままに、毎日漫然と復員に備えた。

大体、海軍の艦隊勤務中はすべての点で厳しい。特に陸上と違って女っ気がない。殺伐な気分が漲（みなぎ）っていて、一触即発。特に上級者に叱られると、その反動が下級者に当たる。

海軍の入隊順序は現役兵も志願兵もそれぞれ年二回に分けられていた。現役兵は一月と六月の前期と後期。志願兵は五月と九月。私は六月の後期兵だから同年兵

の同じ年齢や二～三歳若い志願兵にやられる。もう腹は立っても自分より下級者はいないから涙を流して我慢するしかない。帝国海軍魂涵養の根本である。

現在七十歳を半ば超えての老境に至って振り返って見ても、懐かしいのとこれにより強い人生観が持てたとの認識を否定できない。「艱難汝を玉にす」「玉磨かざれば光なし」古諺の言うとおり。帝国海軍軍人よ！海軍魂を忘れるなかれ。海軍の思い出は「いい所であった」と。戦争はいかんが。海軍魂はいい。

私の海軍の最終の階級は海軍上等工作軍曹。

終戦により基地部隊は解散、順次復員して行くが、私は残務整理要員となり、遅れて昭和二十年十二月に復員帰郷、思い出の多い海軍軍人生活を終わった。

故郷は愛知県渥美郡田原町である。復員後間もなく現在の妻と結婚し一女二男に恵まれ孫も七人いる。

職業は入隊前の徒弟奉公の鉄工所の親方と話し合い、親方の仕事を手伝ううちに、約三年くらいして当時のお金八千円を資本に独立した。不眠不休。創意工夫。不屈不撓の海軍魂により紆余曲折を経て、カナダ工業株式会社（資本金1、000万円）代表取締役社長となり、従業員約二〇人の粒よりの好人材に恵まれ、海軍魂に支えられて毎日充実した忠君愛国の御奉公に励んでおります。

先年は家内同伴、南太平洋海域や思い出の各島々を巡回、慰霊の行脚を重ねました。生き残った者の最も大切な務めと思い、大勢の元海軍軍人と一緒でした。

波間には花束、タバコ、菓子、酒を投じ、島に上陸すればお線香、ローソク、卒塔婆、記念碑、植樹、酒、タバコ、菓子を供え、夢のごとき往時を回顧し、悠久の大義に殉じて、異境の海山に若き命を捧げて散華した、幾多の英霊の御霊の御冥福を祈り、おごそかな心づくしの慰霊式を行い、『ああ、これで長い間の心のくもりが晴れて、やがて戦後五十年の区切りの年を迎えられる。戦友よ！祖国日本にお加護を垂れ給え！』と山を海を振り返り振り返り、お別れして帰国しました。

今でも、その時のスナップ写真の一枚一枚に熱い清い涙をとめどなく流しつつ見入り、感無量であります。

充実した海軍時代。労苦に満ちた戦後生活。そして老い先短い我が身の将来を思って、やはり海軍魂と忠君愛国の鮮やかな大きな旗を押し立てて、迷うことなく軍旗の勢い良くはためくあの世の海軍霊地へ進んでいけることを念願として私の話を終わります。